

環境保全計画に基づく  
令和4(2022)年度事後調査結果報告書

令和5(2023)年10月

栃 木 県

## 目 次

目 次	1
1 調査の目的及び項目等	2
1.1 調査の目的	2
1.2 事業者の名称等	2
1.3 事後調査項目	2
2 事後調査結果	3
2.1 大気質	3
2.2 水質・水象	4
2.3 騒音	5
2.4 振動	6
2.5 植物（生態系を含む）	7
2.6 動物（生態系を含む）	8
3 考察・まとめ	11

## 1 調査の目的及び項目等

### 1.1 調査の目的

県営処分場の整備・運営事業においては、平成27(2015)年5月に作成した「事業実施のための環境影響評価書」の内容を踏まえ、平成29(2017)年3月に策定した「環境保全計画」及び、平成30(2018)年10月に那珂川町と締結した環境保全協定に基づき、工事中から処分場廃止まで事後調査を実施する。本調査により環境保全措置の効果を検証するとともに、必要に応じ追加的な環境保全措置を講じることにより、より一層環境への影響の回避・低減を図ることとしている。

本報告書は、令和4(2022)年度に実施した環境調査結果をとりまとめたものであり、環境保全計画に基づく事後調査結果報告書を兼ねている。

### 1.2 事業者の名称等

- ・事業者の名称 : 栃木県(県営処分場「エコグリーンとちぎ」)
- ・事業者の所在地 : 栃木県宇都宮市塙田1-1-20
- ・代表者の氏名 : 栃木県知事 福田 富一

### 1.3 事後調査項目

事後調査は、平成29(2017)年3月に策定した「環境保全計画」に基づき、工事中の調査を実施した。

令和4(2022)年度の調査項目は、下表に示すとおりである。

表 事後調査項目(令和4(2022)年度)

環境項目	時期	地点	内容
大気質	工事中	事業区域周辺民家等	粉じん
水質・水象	工事中	備中沢及び小口川	河川水質
騒音・振動	工事中	事業区域周辺民家等	環境騒音・振動
		道路沿道	道路交通騒音・振動
植物(生態系を含む)	工事中	里山保全エリア	移植種の生育状況等
動物(生態系を含む)	工事中	里山保全エリア	移植種の生息状況等
		事業区域周辺	猛禽類の繁殖状況等
		里山保全エリア	指標動物の生息状況等

## 2 事後調査結果

### 2.1 大気質

#### (1) 調査概要

##### ア 調査対象

工事による粉じんの影響

##### イ 調査項目

降下ばいじん（ダストジャー法）

##### ウ 調査時期

(ア) 令和4(2022)年8月4日～9月5日

(イ) 令和5(2023)年1月30日～2月28日

##### エ 調査地点（3地点）

- ・事業区域西側民家付近
- ・事業区域東側民家付近
- ・特別養護老人ホーム付近

#### 調査状況



#### (2) 調査結果等及び評価

##### ア 調査結果等

降下ばいじんの調査結果は、全ての地点において参考値とする「道路環境影響評価の技術手法」（（財）道路環境研究所）に示される指針値20 t /km<sup>2</sup>/月を下回る結果であった。

表 降下ばいじんの調査結果

調査項目	調査地点	調査結果 [ t /km <sup>2</sup> /月]		参考値との 適合状況	参考値 [ t /km <sup>2</sup> /月]
降下ばいじん	事業区域西側民家付近	8～9月	1.0	○	20 以下
		1～2月	14	○	
	事業区域東側民家付近	8～9月	5.9	○	
		1～2月	1.7	○	
	特別養護老人ホーム付近	8～9月	1.3	○	
		1～2月	1.4	○	

##### イ 評価

降下ばいじんの調査結果は、全ての地点において参考値とする20 t /km<sup>2</sup>/月を下回る結果となっており、追加的な環境保全措置を講じる必要はないと考えられる。

## 2.2 水質・水象

### (1) 調査概要

#### ア 調査対象

工事に伴う河川水質への影響

#### イ 調査項目

浮遊物質（SS）

#### ウ 調査日

(ア) 令和4(2022)年8月17日

(イ) 令和5(2023)年1月16日

※ 降雨の影響を確認するため降雨日以降に採水を実施した。

#### エ 調査地点（2地点）

- ・ 備中沢
- ・ 小口川

### 調査状況



### (2) 調査結果等及び評価

#### ア 調査結果等

工事に伴う河川水質の浮遊物質の調査結果は、水質汚濁の生活環境の保全に関する環境基準（A類型）である25mg/lを下回る結果であった。

表 浮遊物質の調査結果

調査項目	調査地点	調査結果 [mg/l]		適合状況	基準値 [mg/l]
		8月	1月		
浮遊物質	備中沢	8月	2	○	25 以下
		1月	1	○	
	小口川	8月	2	○	
		1月	1	○	

#### イ 評価

浮遊物質の調査結果は、環境基準を下回る結果となっており、追加的な環境保全措置を講じる必要はないと考えられる。

## 2.3 騒音

### 調査状況

#### (1) 調査概要

##### ア 調査対象

- ・ 工事に伴う騒音レベルの影響

##### イ 調査項目

- ・ 環境騒音レベル
- ・ 道路交通騒音レベル

##### ウ 調査日時

令和5(2023)年2月14日 6:00~22:00

##### エ 調査地点(4地点)

- ・ 事業区域西側民家付近(環境騒音レベル)
- ・ 事業区域東側民家付近(環境騒音レベル)
- ・ 特別養護老人ホーム付近(環境騒音レベル)
- ・ 特別養護老人ホーム前の道路沿道(道路交通騒音レベル)



#### (2) 調査結果等及び評価

##### ア 調査結果等

工事に伴う環境騒音レベルの調査結果は、45~47 dBの範囲であった。調査地点は、騒音の環境基準のC類型に指定されており、環境基準60 dBと比較し全ての地点において環境基準を下回る結果となった。

工事に伴う道路交通騒音レベルの調査結果は、51 dBであった。測定地点は騒音の環境基準のC類型のうち道路に面する地域に該当し、環境基準65 dBと比較し環境基準を下回る結果となった。

表 騒音レベルの調査結果

調査項目	調査地点	調査結果 [dB]	基準値との適合状況	基準値 [dB]
環境騒音レベル	事業区域西側民家付近	47	○	60 以下
	事業区域東側民家付近	45	○	
	特別養護老人ホーム付近	46	○	
道路交通騒音レベル	特別養護老人ホーム前の道路沿道	51	○	65 以下

注1：環境騒音レベル及び道路交通騒音レベルは、基準時間帯平均騒音レベル

##### イ 評価

環境騒音レベル及び道路交通騒音レベルの調査結果は、全ての調査地点において環境基準を下回る結果となっており、追加的な環境保全措置を講じる必要はないと考えられる。

## 2.4 振動

### (1) 調査概要

#### ア 調査対象

- ・ 工事に伴う振動レベルの影響

#### イ 調査項目

- ・ 環境振動レベル
- ・ 道路交通振動レベル

#### ウ 調査日時

令和5(2023)年2月14日 6:00~22:00

#### エ 調査地点(4地点)

- ・ 事業区域西側民家付近(環境振動レベル)
- ・ 事業区域東側民家付近(環境振動レベル)
- ・ 特別養護老人ホーム付近(環境振動レベル)
- ・ 特別養護老人ホーム前の道路沿道(道路交通振動レベル)

### (2) 調査結果等及び評価

#### ア 調査結果等

工事に伴う環境振動レベルの調査結果は、全て25 dB未満であった。環境振動は、環境基準がないことから、生活環境保全上の目標として振動感覚閾値の55 dBを参考値として、調査結果と比較すると、全ての地点において参考値を下回る結果となった。

工事に伴う道路交通振動レベルの調査結果は、25 dB未満であった。測定地点は、振動規制法(昭和51年法律第64号)に基づく区域に指定されていないが、土地の利用状況を勘案して第一種区域の基準65 dBを参考値として調査結果と比較すると、環境基準を下回る結果となった。

表 振動レベルの調査結果

調査項目	調査地点	調査結果 [dB]	参考値との適合状況	参考値 [dB]
環境振動レベル	事業区域西側民家付近	25未満	○	55 以下
	事業区域東側民家付近	25未満	○	55 以下
	特別養護老人ホーム付近	25未満	○	55 以下
道路交通振動レベル	特別養護老人ホーム前の道路沿道	25未満	○	65 以下

注1: 環境振動レベル及び道路交通振動レベルは、振動レベルL<sub>10</sub>

#### イ 評価

環境振動レベル及び道路交通振動レベルの調査結果は、全ての調査地点において、参考値を下回る結果となっており、追加的な環境保全措置を講じる必要はないと考えられる。

## 2.5 植物（生態系を含む）

### (1) 調査概要

#### ア 調査対象種

里山保全エリアに移植した貴重種（ヒシ）及び植物相

#### イ 調査項目等

移植した貴重種の生育状況、林床管理及び里山保全エリアの植物相

#### ウ 調査日等

調査項目等	範囲	調査日
移植地での生育状況	里山保全エリア	令和4(2022)年5月10、12日 ※(7月8、13日)
移植地の林床管理	里山保全エリア	令和4(2022)年7月13日
植物相(貴重種)任意踏査	里山保全エリア	令和4(2022)年5月10、12日 ※(8月24日)

※：（ ）は他項目調査時における確認

### (2) 調査結果等及び評価

#### ア 調査結果等

新たに創出したため池に移植したヒシは良好に生育していることが確認された。

移植地のアズマネザサ等の刈り払いを行った。各移植地で草丈が抑えられており、キンラン、ギンランの新たな生育も確認され個体数も増加してしている。

また、里山保全エリアにおいては新たにミズオオバコが確認され、11種の貴重種が確認された。



ヒシ



ミズオオバコ

※種の保護のため、詳細は非公開

イ 評価

創出したため池に移植したヒシは良好に生育していることが確認された。  
林床管理により良好な環境が維持されていると推測される。  
里山保全エリアの植物相を調査では、11種の貴重種が確認された。

## 2.6 動物（生態系を含む）

### 2.6.1 創出したため池の貴重種

(1) 調査概要

ア 調査対象種

里山保全エリアに創出したため池における貴重種の生息状況

イ 調査項目

貴重種の生息状況

ウ 調査日等

調査項目	範囲	調査日
生息状況	里山保全エリア (創出したため池)	令和4(2022)年7月8日

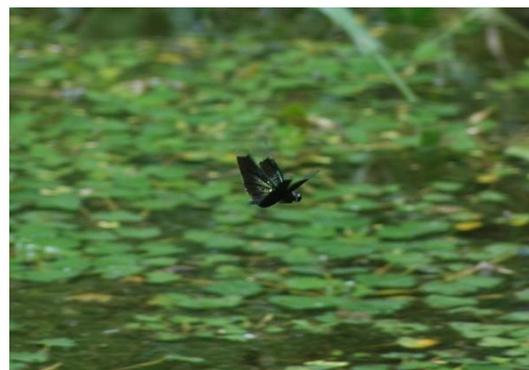
(2) 調査結果等及び評価

ア 調査結果等

調査の結果、創出したため池において貴重種であるヨツボシトンボ、チョウトンボ等38種の生息が確認された。



ヨツボシトンボ



チョウトンボ

※種の保護のため、詳細は非公開

イ 評価

創出したため池において貴重種を含む38種の生息が確認され、多くの種の利用が確認された。

### 2.6.3 指標動物

#### (1) 調査概要

##### ア 調査対象種

里山保全エリアにおける生態系の指標動物（イタチ、オオムラサキ、オゼイトトンボ）

##### イ 調査項目

指標動物の生息状況

##### ウ 調査日等

調査対象種	範囲	調査日
イタチ	里山保全エリア	令和4(2022)年8月24日、9月7日 令和4(2022)年8月24日～9月7日 (センサーカメラ)
オオムラサキ	里山保全エリア	令和4(2022)年7月8日(13日)
オゼイトトンボ	里山保全エリア	令和4(2022)年6月17日

※：（ ）は他項目調査時における確認

#### (2) 調査結果等及び評価

##### ア 調査結果等

イタチは、備中沢沿いで足跡を2箇所確認し、センサーカメラで成体が確認された。

オオムラサキは、生息環境に変化は見られないものの生体は確認できなかった。

オゼイトトンボは、新たに創出したため池において15個体が確認された。



イタチ（足跡）



オゼイトトンボ

※種の保護のため、詳細は非公開

##### イ 評価

里山保全エリアで指標動物であるイタチ、オゼイトトンボが確認された。生息環境に変化は見られないもののオオムラサキの成虫は確認出来なかった。今後も環境保全計画に基づき生息状況を確認する。

### 2.6.1.3 猛禽類

#### (1) 調査概要

##### ア 調査対象

既存調査において営巣が確認されているハチクマ、オオタカ及びサシバを中心に、これら以外の猛禽類も含めて、調査を実施した。

##### イ 調査項目

生息及び繁殖状況調査

※事業区域内に営巣が確認されたオオタカについては、営巣中心域調査を実施

##### ウ 調査日等

調査項目	範囲	調査日
生息及び繁殖状況調査	事業区域周辺	令和4(2022)年4～8月及び 令和5(2023)年2～3月

#### (2) 調査結果

##### ア 調査結果

下表のとおり、定点現地調査により、3科8種の猛禽類が確認された。

うち貴重種は、3科6種であった。

- ・オオタカ  
事業区域内1箇所で営巣を確認した。
- ・サシバ  
事業区域外1箇所で営巣を確認した。

表 現地調査結果

科名	種名	R4(2022)					R5(2023)		営巣の有無
		4月	5月	6月	7月	8月	2月	3月	
ミサコ	ミサコ							○	無
タカ	ハチクマ		○	○	○	○			無
	オオタカ	○	○	○	○		○	○	有
	ツミ								—
	ハイタカ						○	○	無
	ノスリ	○	○	○	○		○	○	有
	サシバ	○	○	○	○				有
ハヤブサ	ハヤブサ						○		無
	チョウゲンボウ							○	無
	コチョウゲンボウ								—
3科	10種	3種	4種	4種	4種	1種	4種	5種	

※網掛けは、貴重種を示す。

※種の保護のため、詳細は非公開

#### イ 評価

事業区域内 1 箇所でおオタカの営巣が確認された。今後も環境保全計画に基づき、施設稼働後 3 年まで、生息状況等を確認する。

### 3 考察・まとめ

今般実施した事後調査によって、環境影響評価時の結果と比較して工事の影響の有無を検討したが、工事による環境影響は少ないものと判断できる。

今後も、環境保全計画に基づく事後調査を継続する。